



# いわき市立大野中学校

## 学校だより 第8号

令和 3年 1月26日 (火)  
発行責任者：校長 田中 淳一  
TEL：0246-33-2233

教育目標：自立と貢献 ～「問い」を発する生徒の育成～  
育成を目指す資質・能力：人間関係形成 × 社会参画 × 自己実現

### 3学期のスタートに当たって

1月7日(木)から3学期が始まりました。依然として、新型コロナウイルスの感染拡大に歯止めがかかりません。人間と自然との関係の“ゆがみ”によって、「感染爆発」(パンデミック)や「気候変動」というしっぺ返しが来ているように思われます。地球上のどこにいても、その影響からは逃れられません。コロナ禍を機に、これまで「見ようとしなかったもの」について、自分との距離をもう少し近づけて、考える必要がありそうです。

現在、医療に従事している人たちは勿論、飲食業をはじめとする様々な仕事に就いている人たちへの負担が大きくなっています。ウイルスはどんな人にも感染リスクをもたらしますが、現実には、社会的な立場が弱い人ほど、コロナの脅威にさらされています。コロナは、社会の根っこにある様々な問題をあぶり出しているのです。

新型コロナウイルスが招いた甚大な影響に対して、私たちは何を考え、どのように行動したのか。こうした予測もできなかった現在進行中の出来事に、私たちはどのように立ち向かっていったのか。解決が困難な問題に直面したとき、そこで問われる力とは何か。目と心を大きく開いて、学ぶことが必要です。

スウェーデンの学生グレタ・トゥーンベリさんは、「あなたは私たちの未来を盗んでいる」という言葉で地球温暖化のリスクを大人たちに訴え、ヨーロッパの気候変動問題の議論を大きく前進させました。しかし、「個人の行動から世界が変わる」という彼女の抱くような信念は、簡単には生まれてきません。むしろ今の日本は、「自分一人が行動することで、社会は変わるはずがない」という無力感にさいなまれ、現状を肯定する以外の選択肢はないようにも感じられます。しかし、たとえコロナが終息しても、それによって浮き彫りになった様々な問題を根本的に解決しようとしなければ、私たちの大切な地域や暮らしは続いてはいかないでしょう。



コロナ禍という時代を生きているからこそ、「自分の運命と世界の運命はリンクしている」という感覚を肌で感じて、今後の学びを、自分の未来と世界の未来を共に切り拓くものにしてほしいと願っています。



## Catch Your Dream

1月22日（金）、全学年の総合的な学習の時間において、公益社団法人ジュニア・アチーブメント日本のキャリア教育プログラム「Catch Your Dream」を実施しました。このプログラムは、グループワークや社会人へのインタビューを通して、「夢・未来」「仕事・職業」の2つの観点から、自分の将来像につながる価値観について理解するとともに、他人の価値観への理解や共感を得ること、自分の将来像に向けた行動や取組について考えることをねらいとしています。



コロナ禍であっても、生徒が普段は出会わないような大人から、豊かな経験知を伝えてもらうような機会をつくりたいとの思いから、在京の社会人5名と生徒をオンラインでつなぎ、2時間枠で実施しました。

当日は、全校生を学年縦割りの5グループに分け、各グループごとに異なる教室を配当し、各教室には、モバイル Wi-Fi、タブレット端末、モニターを設置し、オンライン会議システムへ接続できるようにしました。

各グループの生徒は、異なる5名の社会人へのインタビューを通して、大人がどのようなことを考えているか、中・高生の時にどのような大人になりたいと考えていたか、どのような意思決定をしてこれまでの人生を歩んできたかなどを知り、「じぶん年表」を作成しました。



今後も、外部とのコミュニケーション活動をオンラインによって恒常的・安定的に行うことのできる環境を整備し、総合的な学習の時間等において、多様な学びの可能性が拓かれるように取り組んでまいります。

## 学校評価の主な結果

昨年12月、本校の保護者・生徒を対象とした「学校評価アンケート」を実施しました。その主な結果についてお知らせいたします。

- 「学校に行くのは楽しい」と答えた生徒は5割程度である。今後は、学ぶ楽しさを実感できる授業づくりに努めるとともに、生徒が他者との関わりを通して主体的に問題を解決していく活動を増やしていきたい。
- 「自分にはよいところがある」と答えた生徒は5割程度、「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している」と答えた生徒は4割程度である。今後は、多様な世界（ヒト、モノ、コト）との関わりを通して、生徒の自尊感情や自己有用感を育むように努め、未知と向き合い、克服できるような資質の育成につなげていきたい。
- 「学校は、次代を担う生徒にとって何を優先すべきかを見定め、時間を最も効果的に配分し、生徒・教職員が可能な限り短い在校（活動）時間で、教育の目標を達成する成果を上げられている」と答えた保護者は8割である。今後は、自校の実態に基づいた、組織マネジメント（人・物・予算・情報・時間・ネットワークの活用）とカリキュラム・マネジメント（教育課程の編成・実施・評価・改善）を適切に行い、生徒・教職員が心身共に健康で、学んだり勤務したりできるような学校経営・運営に努めたい。